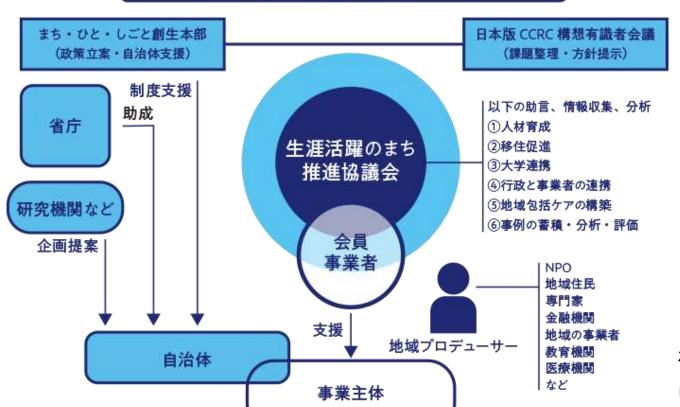
## 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」分科会第2回事例紹介セミナー

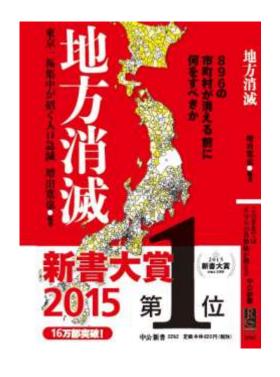
事例紹介① 輪島KABULET (生涯活躍のまちと震災)

## なぜ輪島KABULETは いち早く日常を取り戻したのか



### 「生涯活躍のまち推進協議会」の役割と連携イメージ







従来の地方の活性化政策は政府と有識者の間で提言が 出されるも、**事業の担い手が現れず**に失敗してきた。







地方創生の成功のカギはいかに事業化を進めるか。そのためにも事業者を取りまとめる団体が必要であるとの認識から、生涯活躍のまち推進協議会が任意団体として2015年10月に発足2016年2月に一般社団法人化した。

会長: 雄谷良成(佛子園理事長·JOCA会長)

副会長:大須賀豊博(愛知たいようの村理事長)







## 「漆の里・生涯活躍のまちづくりプロジェクト」のきっかけと経緯

- ○「漆の里・生涯活躍のまちづくりプロジェクト」の一環として、 2015年12月、社会福祉法人佛子園、公益社団法人青年海外協力協会によるジョイントベンチャー「輪島KABULET®」がスタート。
- ○かつて4万8,000人いたピーク人口が2万8,000人まで減少。
- ○輪島塗という基幹産業が衰退し、売上が140億円から30億円にまで縮小。
- 〇のと鉄道七尾線の終着駅であった輪島駅は、2001年に穴水駅・輪島駅間が廃止されたのに伴い廃駅。
- 〇スタッフ10名とその家族を合わせた21名、ならびに佛子園の施設の建築を担ってきた株式会社五井 建設研究所の若いスタッフが輪島市に移住。
- 〇町中に点在する空き家を利活用することでまちの再生するという方針を決定。
- 〇「ぼくたちが選んだエリアは、かつて住民同士の触れ合いがあった市街でした。いまでは人が亡くなったり、出て行ってしまったりで、ひっそりとしていました。ならば、すでにあるもの=空き家になってしまった建物を改修して、かつての賑わいを取り戻そうと考えたのです」

## 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例:石川県 輪島市

### ◆コンセプト:「タウン型生涯活躍のまち」

市街地の空き家や空き地を活用し、多世代交流施設やサービス付き高齢者向け住宅などを配置。青年海外協力協会の人材を活用し、 地域課題を自ら解決できる住民自治機能の形成など、住民によるま ちづくりを通じて多世代の移住者等の受入環境づくりを目指す。

### <特徴>○空き家や空き地などの既存ストック活用

- ○国際的感性を持つ青年海外協力協会の人材活用
- ○住民自治機能の形成と移住者等受入意識の醸成



## ·人口:23,575人(R5.4.1時点)

基・地方創生先行型交付金(先駆的事業分)・地方創生加速化 交付金を活用し、移住者募集広報、事業計画策定、CCRC プログラム構築などを実施。交流拠点施設の整備には都市 再構築戦略事業の交付金を、ウェルネス、ショートステイ、 子育て支援施設の整備には空家再生等推進事業の交付金を それぞれ活用。

### ◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

#### 「交流・居場所」

### 【主な取組内容・進捗状況】

○地域交流施設を核とした交 流・外出機会等の創出、住民自 治活動への参画促進



### 【今後の展開】

○地域住民や近隣の商店会と連携し、各種イベント等を通じて交流を図る

#### 「活躍・しごと」

#### 【主な取組内容・進捗状況】

- ○就労の場の創出
- 地元雇用の増加
- 障害者の就労の場の確保 (就労継続支援A型/B型)



#### 【今後の展開】

○配食サービスセンターや飲食 店等を整備し、さらなる就労 の場を創出

### 「健康」

### 【主な取組内容・進捗状況】

- ○健康促進施設(ウエルネス)の整備・運営
- ○交流拠点施設を核とした見守 り体制整備
- ○地域包括ケア体制との連携



#### 【今後の展開】

○生活困窮者及び高齢者の体力 維持活動を中心とした地域交 流の場としての機能の向上を 目指す

### 「住まい」

### 【主な取組内容・進捗状況】

- ○サービス付き高齢者向け住宅 の整備<全6戸>(就労環境、 地域交流機能付)
- ○多様な人を集めるためのグ ルーブホーム、短期入所施設 の整備



### 【今後の展開】

- ○将来的な取組としてサービス 付き高齢者向け住宅をはじめ、 移住者用の居住施設の確保○障害者向けグループホームを
- 追加整備

### コミュニティへの人の流れ

- ○本プロジェクトにより、JOCAの隊 員やその家族などが輪島に移住
- ○生涯活躍のまちづくりに関する視察の 受入れ等による関係人口の増加
- ※自治体・事業所・関係機関など多数
- ○大学生のインターンシップ受入れ等による若者世代との交流促進

### その他特徴的な取組

○輪島カブーレの第2拠点施設として 市内空き店舗を改修したゲストハウス (簡易宿泊所) がオープン。国内外の 観光客をはじめ輪島を訪れる人との交 流の場としての 活用を期待

# 今度のごちゃまぜはReイノベーション



## まちなかのフィールドワーク

地域の拠点の条件は、 昔から人々が行き交うと ころ。時代を経て形づく られいったまちのつくり に逆らった場所に人は集 まらない。

むかしの面影が残る風景を生かしながら、新しく住民が集う場として選んだのが、まちなかの住宅が密集する一画だった。







## 輪島KABULET 拠点施設

コミュニティ再生の中核を担う交流施設として、温泉、足湯、食事処、住民自治室(地域住民が地域のことを話し合う場所)、福祉施設として生活介護、放課後等デイサービス等の機能をもつ。

- ・そば処「輪島やぶかぶれ」
- ・温泉 「三ノ湯・七ノ湯」
- ・高齢者デイサービス
- 放課後等デイサービスetc..

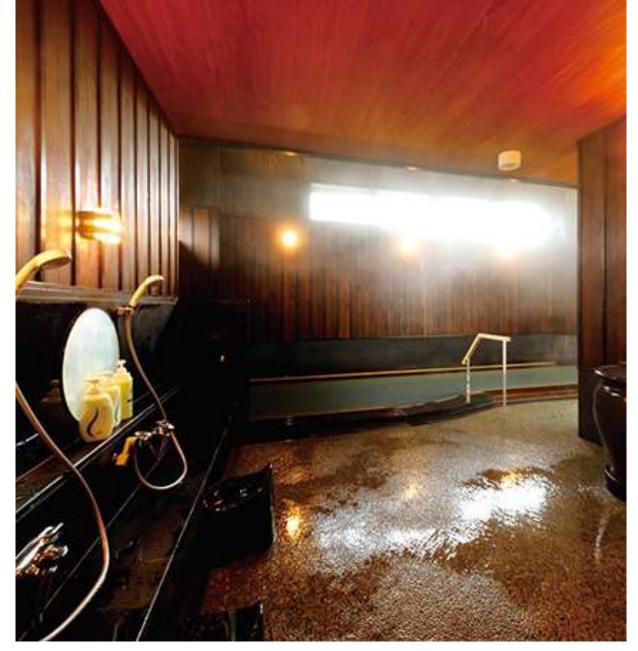
全員 … 就労継続支援

全員 …… A型・B型事業所

**齢者** 障害を持つ方

子ども

多様な機能を持たせることで様々な人々が自然と集まり、ごちゃまぜとなるように設計した拠点施設。



地元地区の住民であれば、無料で入れる温泉。



障害のあるなしに関わらず働いている。誰がスタッフで、誰がお客さんか、わからないことも。



地元の人との交流を楽しむツーリスト。







ゴッチャ!ウェルネス輪島

子どもから高齢者まで。地域住民の健康面のサポートを行うスタッフが常駐。障害のある人もインストラクターして働く、地域のかかりつけウェルネス。



人に見られていると、もうちょっと頑張れる。





## カフェ・カブーレ

親子で楽しむすべてセルフのママカフェで、調理からお片づけまで、すべて自由に利用できる。

はじめてのごっこ遊びから本格的なクッキングまで親子一緒に。ママ友会など気軽に開催。













## うめのやGUESTHOUSE

輪島市中心部に築70年余りの町家(かつての遊郭が居酒屋を経て)をリノベーションしたゲストハウス。東京から移転したラーメン店、コワーキングスペースも設置。

## 地方公共団体との役割分担

【まちづくりにおける課題を解決する方法】 「経済的に解決する道」 補助金や税制優遇といった経済的なインセンティブ 「制度的に解決する道」 法律や条例をつくることで人々の意識や行動を方向づけ

【人口減少や高齢化がもたらす問題】 上記をもっても解決できない問題には、 「美しさ」や「楽しさ」から生み出される、 「共感によって解決する道」がある

## まちづくりのポイント

- プロセスオリエンテッドではなく、 ゴールオリエンテッドで
- ・住民の主体性を引き出す(向き合う のではなく、同じ方向を見る)
- 黒子役とリーダーシップ(言わない 技術、やらない技術)
- ハプニングを楽しむ(トラブルが当たり前)

## 人の行動には、

- ①聞く、知る(情報収集など)
- ②考える(点検・比較・評価)
- ③要求する(苦情、提言、注文・提案)
- ④加わる (計画づくり)
- ⑤支える(事業推進のパートナー)
- ⑥仕切る(自主運営·管理·NPO)

という段階がある。

- ①~③が「参加」
- 4~6が「参画」 といえる。

## 生涯活躍のまちと震災







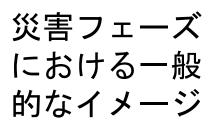


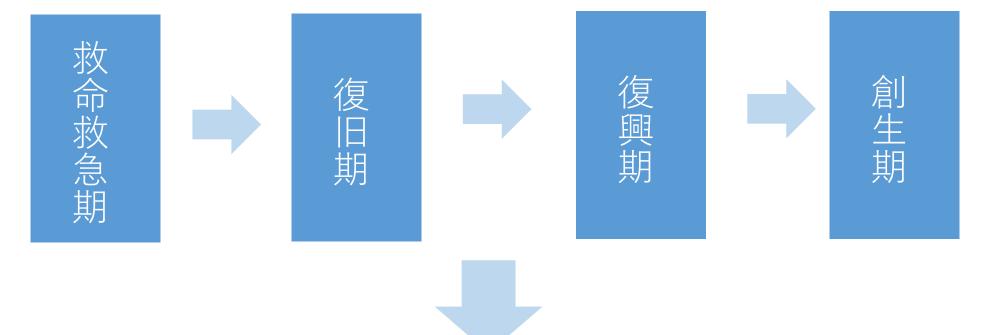




①今後は輪島KABULET(輪島市)および日本海倶楽部(能登町)に支援を集中する、②両拠点への速やかな人的・物的支援体制を確立する、という方針。

JOCAは、①避難所運営と仮設住宅の場所の選定および運営計画を検討し、② JOCAからは東日本大震災や熊本地震における災害支援の経験が豊富な職員による先遣隊派遣。





急性期、復日期に何を仕掛とはかなけるとはいる。



復興期 創生期

## 熊本地震(2016.4.14)

犠牲者268人 直接死50人 関連死218人

能登半島地震(2024.1.1) 直接死244人 関連死〇〇〇人



輪島市役所の 2階にオープン した"カフェ 丹輪島"が市 内で最初の福 祉避難所に









温泉を1月12日 は再開。 自衛隊風呂に 輪島KABULETが 続いた。









風呂上りに生 野菜サラダや お汁粉を提供。

避難所では住 民が餅を自ら 焼いて、みん なに振舞う。











障害のある人も瓦礫の整理、ごみの仕分け、 トイレ掃除など。支援される側ではなく、 支援する側へ。





## (公社) 青年海外協力協会が仮設住宅の見守りを開始。 そして全国から多くのボランティアの方々がサポートに。





## なぜいち早く日常を取り戻せたか~地域による見守り~

5月28日付『北國新聞』で輪島市の仮設住宅に一人で暮らす70代女性の孤独死が報じられた朝、 LINE上で以下のようなやりとりがなされた。

「恐れていたことが現実になりました」

「〇〇町では〇〇さんがお独りやし、仮設での生活が心配です」

「みんなで声をかけていかないといけないですね」

「仮設住宅に行かれる方の所在確認は地区として把握しておきたいですね」

「〇〇さん、すでに自宅解体されて更地になっています。河井小学校の避難所から早く町内のコミュニティのある仮設住宅に入ってもらいたいです」

この間、わずか20分。さらに

「〇〇さんがおしゃるように地域で住み慣れた環境やなじみの関係性が果たす役割って、とてつもなく重要なものやと思います」

「町内会の顔の見えるコミュニティはお互いを守るセーフティーネットになりますね」

ここに達するまでに40分。

支援する側だけでは把握できない情報をキャッチ。 (発災前からの) 住民主体の動きが、地域全体での見守りを可能にする。

## 今後の取組

## 仮設住宅のタイプ

- ①「プレハブ型」(学校のグラウンドや公園などに設置するもの。 迅速かつ大量に供給できるため、避難所生活の早期解消につな がる。ただし、将来的に撤去する)
- ②「まちづくり型」(木造の長屋タイプのものを市街地や近郊の空き地に1カ所あたり10~50戸を建設し、景観に配慮しながら、新たなまちを整備する)
- ③「ふるさと回帰型」(もともと住んでいた集落内の空き地や倒壊した自宅を撤去した跡に木造の戸建てタイプを建設する)



## なぜコミュニティセンターが必要か

仮設住宅に優先して入居する人たちは独居高齢者や障害者。彼ら、彼女らが避難所から移る段階を終えると、行政はひと安心するが、避難所で周りの人たちから見守られている状態と、仮設住宅にひとりでいるそれと、どちらが怖いか。

仮設住宅の入居者が孤立しないように。人が集まる機能としての共同浴場、厨房。ちょっとお茶を飲んで語らえる場所。

交流を通して住民相互の助け合いへ。





# NOTO, NOT **ALONE**



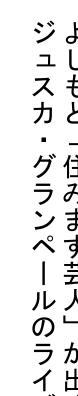
















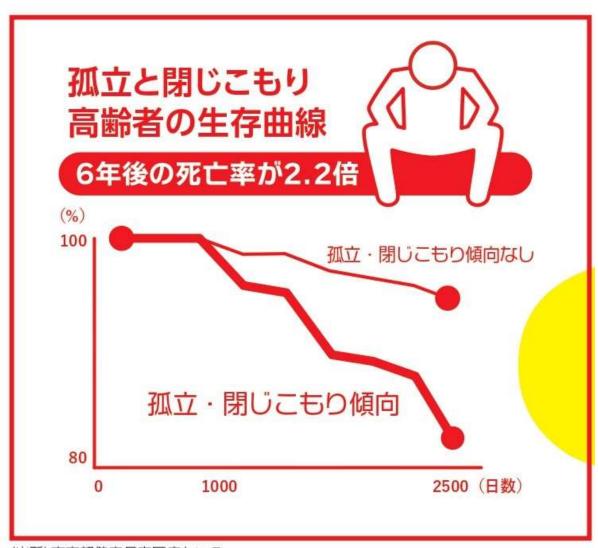








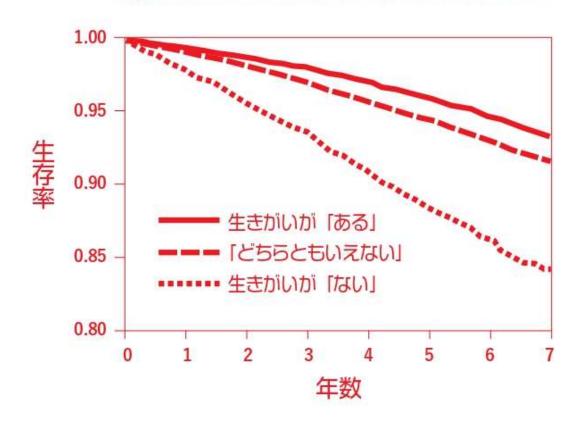
店舗が倒壊した飲食業の方々が出店



(出所)東京都健康長寿医療センター

## 生きがいと生存率の関係

生きがいのある人は、生存率が高くなる傾向にある。



(出所) 日本版 CCRC 構想有識者会議 (第1回) 辻一郎委員提出資料

## 災害関連死を防ぐ

•||•

生涯活躍のまちづくり

## 令和5年度「生涯活躍のまち」に関する意向等調査結果

## <調査概要>

○「生涯活躍のまち」に関する地方公共団体の意向等を把握するため、 令和5年10月31日時点における状況について、調査を実施。

## <調査結果概要>

- ○「生涯活躍のまち」に関する取組を**推進している、または推進意向がある**地方公共団体は**397団体** (推進団体263団体・推進意向団体134団体)
- ○取組を推進している、または推進意向がある地方公共団体のうち、
- ·「生涯活躍のまち」に関する構想等※を策定している団体は194団体
- ・「生涯活躍のまち」に関する構想等に基づき、コミュニティに関する取組を実施している団体は172団体



地方創生最前線

# 生涯活躍の書与





[contact]

(一社)生涯活躍のまち推進協議会

〒399-4112 長野県駒ケ根市中央9番7号

(公社) 青年海外協力協会内

Tel: 0265-98-0481

Mail: hochi@shougaikatsuyaku.town

(担当) 事務局長: 芳地(ほうち) 隆之